

みなさんは「人は本当に変わることができる」と思いますか。私は、正直言って、人は変わることはできないと思っていました。

私が今まで生活をしてきて、「人は変わることができない」と思った事を、いくつかあげていこうと思います。

まずは、勉強において、定期試験のあと、反省欄に毎回毎回「次回は今回よりもきちんと覚えてから挑みたい」と同じ反省を書いています。反省を書いている時は、本当に変わりたいと思っているのに、なかなか変わることが出来ません。

また私は、つい、思っている事をすぐ口にしてしまい、人を傷つけてしまいます。言ってしまったあとに、いつも「言われた相手の事を考えてから発言しよう」と反省しているのに、また同じ失敗をしてしまい変わることができません。

テレビドラマでは、登場人物が人間的に良い方向に変わることがよくありますが、それはあくまでも想像の世界であり、現実の世界ではありえないと思っていました。

しかし、私はこの夏休みに「人は本当に変わる事ができるんだ」と思い知らされました。そう思い知らせてくれたのは、今年十二才になった私の妹です。妹はかんしゃく持ちで、幼い頃からつい最近まで、自分の思う通りに事が進まない、すぐにイライラして「ギャーギャー」喚き散らしていました。その喚き声は、家が壊れるのではないかと思うほどでした。そういった態度のせいで、隣に住んでいる人に虐待を疑われて母が謝りに行ったほどです。また、家族で京都に旅行に行った時も大通りで地面に寝そべって手足をバタつかせたり、泣き叫んだりして両親を困らせていました。妹は、そんな態度をとるたびに母に「もう二度とかんしゃくを起こしません」と謝っていたのに、何年間もその態度はなおりませんでした。そんな、妹の行動からも、私は「人は変わることはできない」とずっと思っていたのです。

しかし、妹はこの夏かんしゃくを起こさないように努力しはじめました。例えばシャワーを浴びたり、縄跳びをしたり、お散歩しに行ったりして、自分の感情をコントロールするようになったのです。このように、努力をする事で、妹は「新しい世界が見えた」と言っていました。ずっと変わらなかった妹がかんしゃくを起こす回数が減り、笑顔がふえていくのを見て、私は驚きました。

ここまで、「人は変わる事ができるのか」という事について考えてきて、ある人物を思い出しました。その人物とは、小学校四年生の時同じクラスメイトだった、松本君です。松本君は正直問題児でした。授業中にも関わらず、教室を飛びだしたりしていました。そんな松本君も、ある時から教室を飛び出す回数が少なくなりました。そして、授業中みんながさわがしかった時に、「こんな僕が言うのもなんだけど、静かにして」と松本君が言ったのです。私は、この言葉を聞いてとても驚いた事を覚えています。

この二人の事を思い出して私は「人は本当に変わることができる」と思い直しました。この二人と私を比べて足りないことは努力だと思います。私は、ただ「変わりたい」「変わりたい」と口で言っているだけで何も、行動や努力をしていないなと思いました。

まず、最初に述べた「試験勉強がきちんとできない」「人の気持ちを考えられない」の二

つを変えていきたいです。そして、妹が言っていた「新しい世界」を見てみたいです。